

## 肥満体型，その被服構成上に於ける問題点

— 世代別の肥満体型を通じて —

・文化女大家政 戸叶光子

目的 豊かな食糧事情，体質，遺伝，民族などにより肥満体の人はいくついても少なくないが，肥満体型といっても様々である。20代，40代，60代と世代別の体型を把握する必要があると思われるし，体型はどう違うのか。また胸囲寸法に比例して首囲や，腕囲が太くなるわけではないから，被服構成上どういう問題点が出るのか，体型をカバーする服づくりは，どうすれば良いのかを探る。

方法 各世代別の肥満体型をシルエットと写真でうつし，それを正面と側面に図示し，それぞれの年代は，どの部位が肥満なのか比較した。身ごろの作図は，胸囲寸法から割出す一般的な原型を使用した。袖の作図は，袖幅，山の高さを身ごろのA・Hから割出すためそのままでは当然太すぎるから，一たん身ごろのA・Hを浅く補正し，そのA・Hを基準に作図した。シーチングでベーシックドレスを構成し，試着してもらい補正箇所を見出した。

結果 20代では胸囲が90cm以上あっても，背すぢは真直ぐに伸び，腹部はたるまず全体的にみて均整がとれている。40代では背すぢは真直ぐだが，腹部に余分な脂肪がつき，乳房よりも突出している。それが60代になると，背はやや丸味をおび，臀部はたれ，乳房もたれ下がる。ベーシックドレスの試着で，衿ぐり，袖ぐりが大きくなり，肩幅も広すぎることは，各世代共通であった。中年期，高齢期では腹部の突出のため，スカートの前丈が不足し，脇縫目が真脇におさまらない。これらのすべを補正した。衣服製作にあたり，作図では体型を把握，考慮の上それを導入し，デザインでは体型カバーのため，ゆるみを適宜入れることが，必要となった。